

子宮頸がん

ワクチンの

現状を紹介

9日、岡山でシンポジウム「子宮頸がんワクチンについて考えるシンポジウム」(県母性衛生学会主催)が9日午後2時45分〜4時5分、岡山市北区鹿田町の岡山県大鹿田キャンパスで開かれる。

同ワクチンは、子宮頸がんの主な原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)の感染を防ぐもので、定期接種となっているが、健康被害の報告が相次

ぎ、国は積極的な接種の呼び掛けを中止している。

シンポでは、岡山大学院の中塚幹也教授が、ワクチンを取り巻く現状などについて講演。同大病院の産婦人科医や県健康推進課の担当者、朝日高の養護教諭が、ワクチンの科学的根拠や子宮頸がんの予防対策などをテーマに話す。4人による討論もある。

参加費千円(学生は500円)。予約不要。定員200人程度。問い合わせは中塚教授の研究室(086-235-6538)。